医学教育分野別評価　富山大学医学部医学科　年次報告書　2026年度

医学教育分野別評価の受審　2022（令和４）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版　Ver2.33
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版　Ver2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価（２巡目）を受審し、2023年６月１日より７年間の認定期間が開始した。今回、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2025年４月～2026年３月の教育活動について、医学教育分野別評価基準日本語版Ver2.36を踏まえて2026年度の年次報告書を作成した。

１．使命と学修成果

１．１　使命

基本的水準　適合

特色ある点
・富山大学医学部の使命が富山大学医学部規則に明示されている。

改善のための助言
・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・富山大学医学部の使命を明示した富山大学医学部規則を、入学時に配布する医学部・薬学部履修の手引きに掲載することで、学生が確認できるようにしている。

改善状況を示す根拠資料
・資料1-1-1　医学部・薬学部履修の手引き（2025）（抜粋）
・資料1-1-2　富山大学医学部規則

質的向上のための水準　適合

特色ある点
・富山大学医学部の使命に医学研究の達成と国際的健康、医療の観点が含まれている。

改善のための示唆
・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・医学部規則等において、医学研究に関するミッション、国際保健や国際医療に対応できる人材養成を行うと明記し、研究室配属・研究医養成プログラム、医学英語、社会医学系科目、臨床実習を通して能力を養成している。
・医学生の国際交流の推進及び国際化に関する取り組みを体系的に進めるため、医学部国際化推進委員会を発足した。

改善状況を示す根拠資料
・資料1-1-1　医学部・薬学部履修の手引き（2025）（抜粋）
・資料1-1-3　医学部国際化推進委員会内規
・資料1-1-4　令和７年度第１回医学部国際化推進委員会議事要録（抜粋）（R7.5.27）及び資料（海外医学演習について）

１．２　大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラムの内容については、令和６年度からカリキュラム開発委員会での学生の意見を踏まえて、医学科教務委員会がまとめ、医学科運営会議で審議される体制とし、カリキュラム開発委員会及び医学科教務員会は学生の参加を可能とした。教育経費は、医学部に配分された予算から、医学部教授会の意見を聞いて組織としての自律性をもって配分している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨(抜粋)（R7.6.24）
・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事要録（抜粋）（R7.4.15）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・富山大学の特徴である「和漢医薬学」や「認知情動脳科学」の医学研究が教育にも利用されている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・現行カリキュラムの検討には、教員や学生は自由に意見表出ができるほか、アンケート調査をフィードバックしてカリキュラムの検討に活かしている。教員や学生は、図書館やインターネットを利用して、最新の研究成果を探索し利用できる。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-4　全学授業評価共通アンケート（R7年度）
・資料1-2-5　医薬学図書館利用案内（富山大学附属図書館HPより）

１．３　学修成果

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・2019年に「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン)」が策定されている。

改善のための助言

・学生が適切な行動をとることを確実に修得させるために、学則や行動規範等に記載しておくべきである。
・シラバスに「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン)」を学生が容易に理解できるような形式で明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年度に行動規範を策定し、令和６年度より学生行動規範の運用を開始した。
・令和６年度に学生のアンプロフェッショナルな行動に関する報告書を作成し、医学科教務委員会等での共有を通じて、学生への適切なプロフェッショナリズム教育の促進に取り組んでいる。
・令和６年度から新設したカリキュラム開発委員会において、「富山大学医学部医学科コンピテンシー」および「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を改訂し、令和７年度版シラバスから新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーが明示されている。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-1　医学部医学科学生行動規範
・資料1-3-2　「学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告」の運用開始について
・資料1-3-3　令和７年度第9,11,12回医学科教務委員会議事要録（抜粋）（学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告について）
・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・卒業時の学修成果である「富山大学医学部医学科コンピテンシー」と、卒後臨床研修終了時の学修成果である「富山大学附属病院卒後臨床研修センター・研修医評価票」に示されたコンピテンシーが関連づけられている。

改善のための示唆

・「富山大学附属病院卒後臨床研修センター・研修医評価票」に示されたコンピテンシーを学生、研修医、教職員に、より一層周知することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・卒後臨床研修プログラム冊子にコンピテンシーを記載するとともに、令和７年度オリエンテーションにおいて、周知を行った。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-5　卒後臨床研修プログラム冊子（抜粋）

１．４　使命と成果策定への参画

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・使命と目標とする学修成果を今後改定する際には、学生の意見を聴取するだけでなく、学生代表が策定の過程に参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年度に医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会への学生参画のための内規改訂およびカリキュラム開発委員会設置・内規制定を実施し、令和６年度以降、各委員会に学生代表が参加している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事録（抜粋）（R7.4.15）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（抜粋）（R7.6.24）

・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点
・なし

改善のための示唆
・使命と目標とする学修成果を今後改定する際には、より広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・令和５年度に医学科教育に関するPDCAサイクル一連で教職員（医学部外：例）教育学部）だけでなく、学生代表から意見を聴取、また策定過程に参画する体制とした。令和６年度より学生代表が参画して医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会の各委員会を運営している。

改善状況を示す根拠資料
・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事録（抜粋）（R7.4.15）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議要旨（抜粋）（R7.6.24）

２．教育プログラム

２．１　教育プログラムの構成

基本的水準　適合

特色ある点
・ICT教育活用を推進し、学生の学修意欲を刺激し、支援している。

改善のための助言
・「富山大学医学部医学科コンピテンシー」を到達できるように、目標、方略、評価を整理してシラバスに記載すべきである。
・「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を見直すなどして、学修成果基盤型教育を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）が医学部医師キャリアパス創造センターのウェブサイトから参照できる。
・令和７年度シラバスから新モデル・コア・カリキュラムに対応したコンピテンシーを明示している。

改善状況を示す根拠資料
・資料2-1-1　富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表
http://www.med.u-toyama.ac.jp/mededu/1-35.%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E9%83%A8%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E7%A7%91%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%86%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%BC%E7%A7%91%E7%9B%AE%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E8%A1%A8%EF%BC%88%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%B3%EF%BC%89.pdf

・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学位授与要件(ディプロマポリシー)、医学部卒業時のコンピテンシーに加えて、低学年から卒業までのマイルストーンを明示しつつ、生涯教育に関わる科目を６年間のカリキュラムに散りばめる形でカリキュラムを設定している。また、自由科目として研究医養成プログラムも設定している。

・必要な医行為(手技)について、網羅的・体系的なシミュレーション教育を行うため、令和６年度にシミュレーションセンターを整備し、学生に開放している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-1-1　富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表

・資料2-1-2　医学部シミュレーションセンター(医学部創立50周年記念誌より)

２．２　科学的方法

基本的水準　適合

特色ある点

・「研究医養成プログラム」が構築され、多数の学生が参画している。

改善のための助言

・各科目で学ぶ科学的手法をシラバスに明記すべきである。

・EBMについて、系統的なカリキュラムを構築して各科目のシラバスに明記したうえで、確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和７年度シラバスから、各科目で学ぶことができる科学的手法を明示している。

・基礎医学教育においては、学体系を基盤としている。また、学問間の水平統合を目的として、一部の教育科目においては基礎医学講座間で連携して実施している （例:基礎医学統合)。また学問間の縦断統合を目的として、臨床医学講座の教員による講義を挟み込むことによって基礎と臨床との統合的な知識が得られるように工夫している教育科目がある(例:多くの３年次臨床科目はまず解剖学・病理学の講義から入る)。

・臨床実習前の臨床医学教育においては、臓器器官系を基盤としている。臨床医学系の教育科目では、ユニットの冒頭に基礎医学系教員による講義が行われており、基礎医学の復習と、臨床医学を理解するための必要な基礎医学的知識を教育することで学生の理解が深まるよう工夫している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-2-1　シラバス（解剖学および解剖学実習）

・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・「和漢医薬学」、「認知情動脳科学」などの大学独自の先端的な医学研究の要素が教育に取り入れ

られている。
・「研究医養成プログラム」が構築され、多数の学生が参画している。

改善のための示唆
・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・研究医養成プログラムに各学年の学生が継続して参加しており、令和７年度は20名の学生が修了した。

改善状況を示す根拠資料
・資料2-2-2　研究医養成プログラムオリエンテーション資料

２．３　基礎医学

基本的水準　適合

特色ある点
・なし

改善のための助言
・基礎医学教育において、臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念と手法を理解するのに役立つ内容を、より充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・基礎医学のカリキュラムにおいて、以下の科目では、科学的・技術的・臨床的進歩についての項目を反映させ、現在と将来に社会及び医療で必要となることを組織だって教育することを意図している。
・現在、２年次に履修する生理学実習では、臨床医学の学修を念頭において、心電図、呼吸機能（スパイロメトリー）、脳波、腎機能（クレアチニン・クリアランス）の測定方法を学習する。
・先進的な知識を対象とした授業が医学概論（１年次）とそれぞれのコース（２年次）の中に設けられている。本学が強みとする研究分野について、４年次に「神経・脳科学」の科目を配して、科学的進歩について提示する体制を、カリキュラムとして整えている。
・新コアカリに伴うカリキュラム再編を行い、令和７年度から、現在３年次で行われている「研究室配属」について、２年次に前倒ししたうえで、実施期間を拡充した。研究意欲の高い学生は、希望により「研究医養成プログラム」に参加することができ、学生が選択した研究室での研究への参加を通じて先進的な研究を知る機会となっている。

改善状況を示す根拠資料
・資料2-3-1　シラバス（生理学実習）
・資料2-3-2　2025年度研究室ガイド

質的向上のための水準　適合

特色ある点
・なし

改善のための示唆
・各科目および医学部全体において、科学的、技術的、臨床的進歩や現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される内容について、バランスよくカリキュラムに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・令和６年度よりカリキュラム開発委員会を立ち上げ、科目構成や日程についてアップデートし

ている。また、大学内において、基礎および臨床医学研究に関する勉強会やセミナーが積極的に開催されており、学部生も参加することが可能である。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-3-3　大学院特別セミナー（2025年度開催）
・資料2-3-4　卒後臨床研修センターアフタヌーンティーセミナー（2025年度開催）

２．４　行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・行動科学は、１年次だけでなく、各診療科での臨床実習も含め、系統的なカリキュラムを構築してシラバスに明記し、責任者が統括して実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・授業科目としての「行動科学」と「こころの科学」に加えて、教養課程から専門課程まで在学中全般にわたって行動科学関連科目が開講されており、行動科学の学修機会が確保されている。
・令和元年度からは１年次を対象とした「行動科学」において、医師のプロフェッショナリズムについても解説しており、早期からプロフェッショナリズムの涵養に工夫している。
・３年次において、「臨床医学統合（３年次対象)」により、グループワーク・シネメデュケーションなどの学習方法を用いて、患者中心の医療の方法・パラダイム・プロフェッショナリズム・医療倫理など社会科学・行動科学・医療倫理学についての学修を行っている。
・日本行動医学会行動医学コアカリキュラム作成ワーキンググループによる「医学部教育における行動科学カリキュラムの提案」(2016)をもとに、令和７年度から単位化された４年次科目の「医療プロフェッショナリズム」において行動科学に関する講義を設けた。
・令和６年12月より、行動科学・社会医学・医療法学の臨床的な応用を医療安全部門・医療福祉サポートセンターなどで行う多職種連携実習により学修を行っている。
・上記により１年次から６年次まで螺旋型の系統的なプロフェッショナリズム教育・行動科学・社会医学・医療法学に関する学修機会を構築している。これらの講義のシラバスに、令和７年度から新モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーを提示している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-4-1　シラバス（行動科学）
・資料2-4-2　シラバス（臨床医学統合（３年次対象））
・資料2-4-3　シラバス（医療プロフェッショナリズム）
・資料2-4-4　シラバス・資料（多職種連携実習）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関し、各分野において科学的、技術的そして臨床的進歩、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること、人口動態や文化の変化を踏まえて科目のカリキュラムを調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・人口動態や文化の変化を踏まえた内容については、１年次の医療学入門、４年次の社会と医学・医療、社会医学実習などで講義を行っている。
・令和５年度以降継続して、３年次の地域枠・特別枠の学生と希望する一般枠学生を対象に、社会医学に焦点を当てたサマースクールを実施した。
・医療倫理学、医療法学、また、行動科学については１年次の導入学修B、医療学入門、早期介護福祉体験実習、３年次の救急車同乗実習、臨床医学統合３、４年次の臨床医学統合４、医療プロフェッショナリズムにおいて患者中心の医療の方法・パラダイム・プロフェッショナリズム・医療倫理など社会科学・行動科学・医療倫理学についての学修を行っている。また、４年次の必修臨床実習、５年次、６年次の必修臨床実習、選択臨床実習で現場に即して学べるように設定している。
・令和６年12月から、主に医療安全部門・医療事務部門などの多職種と連携して、臨床実習を行う多職種連携実習を導入し、社会医学・医療法学の視点と多職種連携・協働を臨床の現場を通じて学ぶことができる機会を創出した。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-4-5　シラバス（医療学入門（１年次））
・資料2-4-6　サマースクール（令和７年度）
・資料2-4-2　シラバス（臨床医学統合（３年次対象））
・資料2-4-4　シラバス・資料（多職種連携実習）

２．５　臨床医学と技能

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・臨床実習の評価がMoodle上でオンライン化され、迅速にフィードバックして、学生の技能修得を促進している。

改善のための助言

・卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得に資するように診療参加型臨床実習をより充実すべきである。
・臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間内に十分持つべきである。
・健康増進と予防医学の体験を確実に実施すべきである。
・学生が経験した症候・疾患および医行為の解析結果を活用して、継続的に臨床実習の教育内容や主要な診療科で学修する時間を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・卒業後に求められる医療的責務に応えられるように、令和６年 12 月から、臨床実習における各診療科での実習週数を変更し、主要な診療科での学修時間の拡充・適正化に取り組んでいる。これにより、医療専門職としての技能の習得が図られるよう、診療参加型臨床実習の充実を推進している。
・卒業後に適切な医療的責務を果たすための重要な知識および臨床技能を修得するため、卒後臨床研修センターが中心となり、学生向けの手技指導を定期的に行い、診療参加型臨床実習の充実に努めている。加えて、研修医向けのイブニングセミナー（輸液管理、抗生剤の使用方法、各科の救急疾患対応など広い分野の講義）を学生にも開放し、学生から研修医にスムーズに移行できるよう配慮している。
・臨床実習における学生評価について、「卒前臨床実習 実習生用オンライン臨床教育評価システム」（CC-EPOC）を導入し、評価・フィードバックに活用することとした。それらをデータ化することで、解析および臨床実習における不足点を補完できるように分析に取り組んでいる。CC-

EPOC を利用したカリキュラム評価の結果も踏まえ、令和６年 12 月から、４～５年次の必修臨床実習においてシミュレーション実習を開始し、全学生に対して採血などの侵襲の大きな医行為を中心としたトレーニングを導入した。臨床実習では患者安全などの観点から実施機会が限定的な侵襲のある医行為についても、卒業後に求められるコンピテンシーの修得に努めている。
・総合診療科では必修実習において全学生が初診患者の医療面接および身体診察が経験可能となっている。
・和漢診療科などをはじめとして、臨床実習中に定期的な患者診察の機会を提供することで計画的に十分な関わりを提供できる教育プログラムとしている。
・産婦人科・乳腺外科では遺伝性乳がん卵巣がん症候群患者における予防的乳腺切除および予防的卵巣卵管切除を学習項目として、臨床実習において患者を担当させ、予防医学と共に疾患リスクを下げるための方策を学ぶ機会を提供している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-3-4　卒後臨床研修センターアフタヌーンティーセミナー（2025年度開催）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・学生が経験した症候・疾患および医行為の解析結果を活用して、経験が不足している領域に対してシミュレーション教育を行っている。
・ICTを活用したカルテ記載演習システムを構築し、実践していることは評価できる。

改善のための示唆

・２年次、３年次において患者と接触する機会を持つことが望まれる。
・低学年からの計画的な教育体制をより充実することにより、さまざまな臨床技能教育が行われることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年度以降継続して、３年次の特別枠・地域枠の学生と希望する学生を対象に、社会医学に焦点を当てたサマースクールを地域の病院において実施し、地域住民や患者等と医学生によるフィールドワークやディスカッションを通じて、地域医療の課題を自分達の課題として考える体験を提供した。
・３年次生を対象とする臨床現場の見学型実習として、救急車同乗実習のプログラムを令和７年度に策定し、令和８年度から実施予定である。
・希望する学生を対象として、救急科などでの見学型の学習機会を提供している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-4-6　サマースクール（令和７年度）

２．６　教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生に配布している「医学部履修・学生生活の手引き」に、全体的な講義や実習の概要、履修内容や全体的な科目構成を明記している。各科目の内容を記したシラバスは、ヘルンシステムを使

用してウェブ上で公開している。
・令和６年度よりカリキュラム開発委員会を発足させ、教育プログラムの評価、改良を図っている。この委員会には各学年から学生が委員として参加し、意見交換を行っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（抜粋）（R7.6.24）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・補完医療として、「和漢医薬学」教育が充実している。

改善のための示唆

・すべての卒業生が「富山大学医学部医学科コンピテンシー」を確実に修得できるように、関連する科学・学問領域および課題のより一層の水平的統合を推進することが望まれる。
・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム開発委員会及び医学科教務委員会を中心として、カリキュラム内における学修の水平統合及び垂直統合の推進とその実現に向けた教員の取り組みを支援している。また、令和７年度のシラバスから水平統合・垂直統合の実施状況を明示することで、より体系的なカリキュラムへの実装に取り組んでいる。
・基礎医学教育においては、学体系を基盤としている。また、学問間の水平統合を目的として、一部の授業科目では、基礎医学講座間が連携して教育を実施している(例:基礎医学統合)。さらに、学問間の縦断統合を目的として、臨床医学講座の教員による講義を組み込むことによって、基礎と臨床との統合的な知識が得られるように工夫している科目もある(例:多くの３年次臨床科目はまず解剖学・病理学の講義から入る)。
・臨床実習前の臨床医学教育においては、臓器器官系を基盤としている。臨床医学系の授業科目では、ユニットの冒頭に基礎医学系教員による講義が行われており、基礎医学の復習と、臨床医学を理解するための必要な基礎医学的知識を教育することで学生の理解が深まるよう工夫している。
・令和７年度シラバスから、各科目における水平統合・垂直統合に関する実績を記載している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

２．７　教育プログラム管理

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ組織を明確に定め、その組織に学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年度に、医学科教務委員会及びカリキュラム評価委員会の内規を改訂するとともに、カリキュラム開発委員会を設置し、カリキュラムの立案と実施に関する責任と権限を明確化し、学生代表の参画についても内規に明示した。令和６年度からは、各委員会に学生代表が参加している。
・医学科教務委員会、カリキュラム評価委員会及びカリキュラム開発委員会においてカリキュラムの企画・立案から実施までを組織的に推進する。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事録（抜粋）（R7.4.15）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨(抜粋)（R7.6.24）
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ組織を明確に定め、その組織に広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会への学生の代表の参加に関する内規改訂・制定を実施し、令和６年度からは、各委員会に学生代表が参加した。
・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会において、医学科所属外の教員も構成員とすることについて内規で規定されている。
・必要に応じてさらに広い範囲の教育関係者の代表者の参加について今後も適宜検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事録（抜粋）（R7.4.15）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（抜粋）（R7.6.24）
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

２．８　臨床実践と医療制度の連携

基本的水準　適合

特色ある点

・卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携を適切に行うために、医師キャリアパス創造センターが設置され、教育改善のために活発に活動していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医師キャリアパス創造センターには医学教育部門・卒後臨床研修部門・専門医養成支援部門が含まれ、卒後臨床研修センターの毎月の会議に、医学教育学教授、卒後臨床研修センター長、専門医養成支援センター長が参加し、卒前―初期研修医―専攻医までのシームレスな教育体制をとっている。初期臨床研修の観点から必要な学生教育や実践的手技の取得、また専門医になるために必要な知識を得る機会の設定などを会議にて議論し、実践している。
・シームレスな教育を実践するため、学生―研修医―指導医の屋根瓦式教育体制を作る機会を増やしている。実際には、初期臨床研修医を（一部）講師とした学生向けのハンズオンセミナーの実

践、学生向け初期臨床研修プログラムの研修医による説明、初期臨床研修医向けセミナーの学生参加による先行学習の更なる推進などを行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-3-4　卒後臨床研修センターアフタヌーンティーセミナー（2025年度開催）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・卒業生が将来働く環境からの情報をより多く収集し、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

３．学生の評価

３．１　評価方法

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・臨床実習において、知識・技能・態度の形成的評価のための実習ノートを導入している。

改善のための助言

・追再試験の回数をシラバス等において開示すべきである。
・再評価（旧 再試験）の概念を、学生と教職員に対してより周知徹底すべきである。
・６年間の医学部教育を通じて態度評価をさらに充実させるべきである。
・評価方法および結果に対して生じうる利益相反に関する各種規約を明示すべきである。
・６年を通じて学内で行われる評価が、試験出題者以外の専門家によって吟味される仕組みを構築すべきである。
・評価結果に対する疑義申し立て制度を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・追再試験の回数については、令和７年度からシラバスにおいて開示している。
・再評価（旧再試験）については、医学部規則及び申合せに基づき運用している。令和７年度シラバスから全科目で追・再評価試験の回数を明示するとともに、「履修の手引き」へ掲載し、学生及び教職員への周知を強化した。
・態度評価については、低学年の実習態度評価、高学年のmini-CEXや360度評価等を活用し、コンピテンシーに基づく多面的評価を実施している。また、令和６年度よりアンプロフェッショナルな行動に関する報告制度を導入し、評価の充実を図っている。
・成績評価に関する意思決定は、担当教員による評価に加え、医学科教務委員会及び医学部教授会での合議により行っており、利益相反による影響を回避する体制を整備している。
・評価の質保証に向け、医学教育学講座、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会等において継続的に検討を行っている。令和６年度にはカリキュラム評価委員会等の内規を整備し、

６年間を通じた評価結果を教育改善へ反映する仕組みを構築した。
・評価結果に対する異議申立てについては、全学共通の制度を整備し、学生向けハンドブック及び大学ホームページで周知している。また、「医学部における成績評価に対する異議申立てに関する申合せ」を公表し、手続の明確化を図っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料3-1-1　医学部における成績評価に対する異議申立てに関する申合せ
・資料3-1-2　医学部における再評価の実施に関する申合せ
・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・新型コロナウイルス感染症の流行下における臨床実習の代替手段として、オンラインシミュレーション実習を導入し、学生によるピア評価を行っている。

改善のための示唆

・個々の科目における評価に対して、その信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
・mini-CEXや360度評価などの診療現場における学生評価が、より多くの診療科で実施されることが望まれる。
・評価の公平性、質および透明性を高めるために、学内試験において試験出題者以外の評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・個々の科目における評価の信頼性と妥当性については、医学教育学講座が中心となり、医師キャリアパス創造センター、医学科教務委員会、医学科運営会議とともに検証を行っており、その結果については必要に応じて発表などを行っている。特に内科統合試験については、信頼性・妥当性の検討を重点的に行っている。
・複数の講座が関与する試験においては、自身の出題範囲外についても確認を行い、フィードバックを行うことで、評価の公平性、質および透明性を高めている。
・個々の科目における評価に対して、可能な限り複数の評価者・複数の評価方法による評価、信頼性・妥当性の検討を行っていることを明示するため、令和７年度のシラバス作成において、当該科目における成績評価方法の中に、評価者（評価作成者）が授業を担当する全教員であることの記載を教員に依頼し、シラバス上に明示している。
・同じく令和７年度から、各科目のシラバスにおいて、試験出題者以外の評価者情報の記載を必須とすることで、関連情報の収集とその活用を促す運用としている。
・mini-CEXなどの診療現場における学生評価については医師キャリアパス創造センターが中心となり実施している診療科や実施件数等を毎年確認している。より多くの診療科で実施されるよう、令和７年度に医学科教務委員会と医学科運営会議において、学内外の実習先におけるCC-EPOCやmini-CEXの入力状況を共有したことに加えて、CbDとmini-CEXの実践に関するFDを実施した。
・CC-EPOCは令和５年度より導入しており、多面的評価の実施に取り組んでいる。令和７年度第２回医学科運営会議（R7.5.28）においてCC-EPOC入力状況及びmini-CEX等の件数について、令和７年度新設の臨床実習での各診療科の実務者を構成員とした臨床実習推進会議（R7.11.25）では選択制臨床実習におけるmini-CEXの活用に向けて情報共有を行った。mini-CEXや360度評価などの診療現場における学生評価の現状への理解向上が期待される。

改善状況を示す根拠資料

・資料3-1-3　CC-EPOC入力状況及びmini-CEXなどの件数について（令和７年度第２回医学科運営会議資料）

・資料3-1-4　令和７年度第１回臨床実習推進会議資料（抜粋）（R7.11.25）
・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

３．２　評価と学修との関連

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・卒業までに学生が修得すべきコンピテンシーを年次進行のカリキュラムに合わせて示し、所定の単位を各学年で取得することでマイルストーンが達成される評価体系として、「医学部医学科コンピテンシー科目対応表」を整備している。

改善のための助言

・学生が、学修成果を段階的に修得していることを確実に保証する評価を行うべきである。
・形成的評価を適切に用いて、学生が自らの成長に気づくことができるような評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・卒業までに修得すべきコンピテンシーが定められている。コンピテンシーは年次進行のカリキュラムに合わせて示されている。所定の単位を各学年で取得すると、マイルストーンが達成され、修得すべきコンピテンシーが得られる評価体系となっている。また、学修成果可視化（積算能力評価）によりレーダーチャートが示されることによって、学生は自身の学修成果が段階的に評価されていることを確認できる。令和６年度のカリキュラム開発委員会において、新モデル・コア・カリキュラムに対応するマイルストーンが設定されており、各授業・実習などに応じたコンピテンシーとマイルストーンが令和７年度のシラバスから明示している。
・教養教育、基礎医学教育、臨床医学教育の全般にわたって、小テストの実施やレポート提出、シラバスに沿った定期試験問題の出題をするなどで、学生の日常的な学習を促進するなど、形成的評価が行われている。また、臨床実習ではmini-CEXなどを用いて学修成果の形成的評価を行なっている。１年間に150件を超えるmini-CEXによるWork Place Based Assessmentによる形成的評価が実施されており、学生が自身の成長を把握し、今後の課題を発見できるような臨床実習が実施されている。
・形成的評価（mini-CEXや360度評価など）・フィードバック実施について、令和７年度第２回医学科運営会議（R7.5.28）及び臨床実習推進会議（R7.11.25）において多くの教員へ情報共有を行った。
・学外も含めた全診療科において、CC-EPOCによる統一された“診療の基本評価”を行っており、学生自身が経時的変化・成長を自覚できるような評価を行っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）
・資料3-1-3　 CC-EPOC入力状況及びmini-CEXなどの件数について（令和７年度第２回医学部医学科運営会議資料）
・資料3-1-4　令和７年度第１回臨床実習推進会議資料（抜粋）（R7.11.25）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、試験回数や方法を適正化することが望まれ

る。
・卒業試験を含む全ての試験において、試験問題の開示などによって学生に適切にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・基礎医学については、非常に広い範囲での知識の修得を助けるため小テスト、中間試験を導入している。また、基礎医学統合による基本的知識の習得と合わせて統合的学修に取り組んでいる。臨床医学では臓器別に水平統合を行っているが、試験でも様々な講座の教員が出題し、統合的学修を促進している。卒業試験についてはすでに、内科統合試験（内科領域のほかに和漢診療科、総合診療科も含む。）を実施している。また、外科系については、臨床実習を用いた評価など内容に合わせて単独で実施している。
・試験問題の開示は多くの試験で行われている。
・各教員に対して、試験問題開示や解答公開の有無について、令和８年度のシラバスから明記するよう求める。開示・公開が困難な科目については、その理由も併せて記載する。

改善状況を示す根拠資料

・資料3-2-1　シラバス（基礎医学統合）
・資料2-4-2　シラバス（臨床医学統合（３年次対象））
・資料3-2-2　シラバス（臨床医学統合（４年次対象））
・資料3-2-3　卒業試験日程

４．学生

４．１　入学方針と入学選抜

基本的水準　適合

特色ある点

・従来は医学部長の諮問機関として位置づけられていた「医学部入試懇談会」を改組して2016年６月に「医学部入学試験委員会」を設置し、入学選抜の適正かつ円滑な実施のみならず、入試改善に向けた取り組みを行っている。
・身体に不自由がある学生の入学に組織的に対応し、設備のバリアフリー化など、学修環境の整備を進めている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学科では継続して入試改善の取り組みを行っており、2025年度入試においても、教育目標に掲げる「地域医療に貢献できる医師養成」実現のため、引き続き、富山県からの要望に基づく入学定員の10人増員を申請し、総合型選抜Ⅱ（富山県特別枠）として実施し、2026年度も同様に実施することを計画している。また近隣の地域からの応募を推進するため、2025年度実施入試から学校推薦型選抜Ⅱ（富山大学地域枠）に隣県枠（定員２名）を設置した。2026年度実施入試から、新潟県からの要望に基づき、総合型選抜Ⅱにおいて新潟県特別枠（定員２名）を設置する。

改善状況を示す根拠資料

・資料4-1-1 令和８年度入学者選抜要項（抜粋）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・医師キャリアパス創造センターのIR機能を活用して、学修成果に関連した選抜プロセスを見直す体制を構築している。

改善のための示唆

・入学決定に対する疑義申し立て制度を定め、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・「富山大学入学者選抜の試験問題作成及び点検に関する申合せ」（令和５年６月26日制定）において、（出題や採点上の疑義、ミス等の対応）を定め、疑義申立てがあった場合には、本申し合わせに基づき対応している。

・医学部においては本申合せに基づく具体的な対応手順として、「富山大学医学部入学者選抜に係る疑義照会に関する対応手順」（令和７年12月16日制定）を定めている。

・入試情報は、①合格者成績の開示、②個人成績の開示があり、以下のホームページで入試関連の問い合わせ先を開示している。

資料4-1-2　富山大学入試情報開示（https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/info/）

改善状況を示す根拠資料

・資料4-1-2　富山大学HP（入試情報開示・入試統計）
https://www.u-toyama.ac.jp/admission/undergraduate-exam/info/

・資料4-1-3　富山大学医学部入学者選抜に係る疑義照会に関する対応手順

４．２　学生の受け入れ

基本的水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・IRの結果や地域の医師確保に資する大学の使命に基づき、選抜方法を見直している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医療圏を考慮し、2025年度実施入試から学校推薦型選抜Ⅱ（富山大学地域枠）に隣県枠（定員２名）を設置、2026年度実施入試から、新潟県からの要望に基づき、総合型選抜Ⅱにおいて新潟県特別枠（定員２名）を設置するなど、地域医療を重視した選抜を実施している。

・附属病院地域医療総合支援学講座とも連携を行い、県内医師不足状況を踏まえつつ、選抜方法見直しに役立てる。

・引き続きIR結果を活用し、選抜方法を見直していく。

改善状況を示す根拠資料
・該当なし

４．３　学生のカウンセリングと支援

基本的水準　適合

特色ある点
・クラス担任のほかに、６学年を通した縦割り制度のグループ担任を置き、学修上の問題を抱えた学生や長期間のケアが必要な学生を支援する体制を整えている。

改善のための助言
・カウンセリング制度に関与する教員間の連携をさらに強化すべきである 。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・縦割りグループ制度を活用し、学生とのコミュニケーションの機会を確保するとともに、縦割りグループごとの活動を学務担当者に毎年報告し、その情報を共有している。
・縦割りグループ教員内でリーダーを設定し、教員同士が連携をとれるように促す。

改善状況を示す根拠資料
・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事要録（抜粋）（R7.4.15）（令和７年度グループ担任（案）について）

質的向上のための水準　適合

特色ある点
・クラス担任やグループ担任（縦割り制度）に加えて、医師キャリアパス創造センターおよび地域医療総合支援学講座が、キャリアガイダンスとプランニングについてカウンセリングを行っている。

改善のための示唆
・学生の教育段階における学修上の問題点を抽出し、それに応じたカウンセリングを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・現状、クラス、グループ担任が主に生活上・学修上の問題点に対応しており、引き続き医師キャリアパス創造センター等と連携して活動を継続する。
・学生の教育段階における学修上の問題点を学務担当者、教務委員長で共有し、必要に応じて適宜担任、医師キャリアパス創造センター等と連携してカウンセリングを行う。

改善状況を示す根拠資料
・該当なし

４．４　学生の参加

基本的水準　部分的適合

特色ある点
・なし

改善のための助言
・使命の策定、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項を審議する委員会への学生の参画を実質化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・使命の策定、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項の審議への学生参画を実質化するため、令和５年度に、医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会の内規の改訂を行うとともに、カリキュラム開発委員会を新設しその内規を制定した。これらの内規において、学生の参画を明確に位置付け、令和６年度以降学生が参画している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-3　令和７年度第１回医学科教務委員会議事録（抜粋）（R7.4.15）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-2-2　令和７年度第１回医学科カリキュラム開発委員会議事要旨（抜粋）（R7.6.24）
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

５．教員

５．１　募集と選抜方針

基本的水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の活動を、明示されている責務を指標として十分にモニタすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・基礎・臨床医学の教員の活動の特徴や責務に応じたエフォートに基づき教員業績評価を行い、教員の活動をきめ細やかに把握モニタリングしている。

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

５．２　教員の活動と能力開発

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・評価の基準を明確に示したうえで教員業績評価を実施していることは評価できる。

改善のための助言

・すべての教員がカリキュラム全体を十分に理解できるシステムを構築すべきである。

・全教員のFaculty Development(FD)への参加をさらに促進して、教員の能力開発を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医学教育学部門により、カリキュラムや教育理論の理解向上を目的とした医学部医学科FDを実施している。対面・オンラインを併用した同期型実施により参加者の拡充を図ることに加えて、講義動画のアーカイブ化により非同期学習にも活用している。

・令和７年度からは、毎年度、医学教育推進専門委員会およびカリキュラム開発委員会の初回において、「富山大学医学部医学科カリキュラムマップ」を資料として配布し、幅広い教員・指導医間で医学教育上の課題を共有するとともに、教育能力の向上を継続的に図っている。また、医学部医学科FDについても、引き続き年３回、開催し、教員の参加促進に取り組んでいる。

改善状況を示す根拠資料

・資料5-2-1　令和７年度第１～３回医学部医学科FDポスター

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率が適切であるかを考慮することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会の各委員会の設置により、カリキュラムを構成する講義・実習など授業形式や達成すべきコンピテンシーに応じた教員の適正配置・配分なども含めて検討できる体制を整備している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規

・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

・資料1-4-2　医学科教務委員会内規

６．教育資源

６．１　施設・設備

基本的水準　適合

特色ある点

・図書館および一部の情報処理実習室の使用が24時間可能である

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・医薬イノベーションセンターに30室のセミナー室が整備され、小人数グループ学習に活用されている。

改善のための示唆

・シミュレーション教育設備の計画的な整備が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和６年度に医学部50周年記念事業としてシミュレーションセンターを整備し、学生に開放している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-1-2　医学部シミュレーションセンター（医学部50周年記念誌より）

６．２　臨床実習の資源

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・各診療科で経験できる患者数と症候・疾患分類について学生の臨床経験を確実に把握し、臨床実習の教育内容、教育期間および教育病院を再構築すべきである。

・学外臨床実習施設における指導者の質を担保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・CC-EPOC利用による臨床経験の把握精度向上、経験した症候・疾患について、診療科・病院ごとの学修内容の把握に取り組んでいる。

・令和５年度に臨床実習の教育内容・教育期間の再構築を検討し、令和６年度より実施した。

・令和６年度以降、毎年度、学外病院の指導医向けにCC-EPOCなど学生評価に関する情報提供を行い、形成的評価の実施促進に取り組んでいる。

・令和７年度には、医学科教務委員会を主体として、診療参加型臨床実習のさらなる促進に向けた取り組みとして、実習現場の視察や指導医向けアンケートなどを実施し、臨床実習の特長・課題の評価を行った。

改善状況を示す根拠資料

・資料6-2-1　CC-EPOCの利用方法（学外病院指導医へ送付）

・資料6-2-2　教務委員会による臨床実習視察の結果について（令和７年度第11回医学科運営会議資料）

質的向上のための水準　適合
特色ある点 ・寄附講座として「地域医療総合支援学講座」、「南砺・地域医療支援学講座」および「朝日・地域医療支援学講座」を設置し、地域へ医師派遣を行っている。
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

６．３　情報通信技術

基本的水準　適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準　適合
特色ある点 ・学生は学外から電子教材へアクセスすることが可能であり、自己学修の環境が整っている。 ・学生が記載した電子カルテを指導教員が確認するシステムが機能している。
改善のための示唆 ・診療参加型臨床実習を効率よく行えるように、学生が使用できる電子カルテ端末を十分に確保することが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・診療参加型臨床実習の効率的な実施のための電子カルテ端末の効果的な利用について今後も検討する。
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

６．４　医学研究と学識

基本的水準　適合
特色ある点 ・大学の特色である「和漢医薬学」、「認知情動脳科学」などの医学研究に関連した教育を低学年から行っており、医学研究と教育が関連づけられている。
改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・「和漢医薬学」や「認知情動脳科学」など、大学の特色のある分野の医学研究と教育が融合して行われていることは評価できる。

改善のための示唆

・３年次の研究室配属では、成果の発表機会を与えるなどにより、一層の研究の奨励を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和７年度は中間報告会を実施し、学生が発表する機会を提供した。
・最終日などに成果発表会の機会導入を検討する。

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

６．５　教育専門家

基本的水準　適合

特色ある点

・卒前・卒後の教育を統括する医師キャリアパス創造センターが設置されている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・教育専門家や医学教育研究者が、カリキュラム開発委員会など新設された委員会運営に参加し、カリキュラム改善に取り組んでいる。

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・学内のみならず、学外の教育専門家をさらに活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・臨床実習前において、EBM教育のため学外の教育専門家の招聘による指導を受けている。
・学外の教育専門家との意見交換などに今後も積極的に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

６．６　教育の交流

基本的水準　適合

特色ある点

・海外留学プログラムにより、海外で臨床実習を行った学生の活動を周知している。

改善のための助言

・国内の他教育機関との学生の交流をさらに推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・文部科学省補助金「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」において、社会医学に焦点を当てたサマースクールを富山大学と新潟大学の医学生の参加により合同で実施し、国内の医療機関の学生との交流を推進している。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-4-6　サマースクール（令和７年度）

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・海外へ派遣する学生、海外から受け入れる学生に対する支援が組織的に実施されている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和７年度は、医学部国際化推進委員会を設置し、医学部における学生派遣・受け入れに関して統括的に支援できる体制を整えた。また、台湾・中山医学大学との間で、学生交流等を目的とした部局間交流協定を締結した。

・海外への派遣・受け入れの組織的な支援が拡充できるよう継続して取り組む。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-1-3　医学部国際化推進委員会内規

７．教育プログラム評価

７．１　教育プログラムのモニタと評価

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・カリキュラムの教育課程と学修成果をモニタし、教育プログラム評価を行う、責任ある独立した組織を構築すべきである。

・医学教育に関する委員会組織の責任と役割分担を明確にし、教育プログラム改善のためのPDCAサイクルを確実に回す体制を構築すべきである。

・教育プログラムを評価するために必要なモニタリング項目を再検討し、客観的な指標をもとに評価を行うべきである。

・「富山大学医学部医学科コンピテンシー」ならびに「富山大学医学部医学科コンピテンシー科目対応表（マイルストーン）」を指標として、全学年にわたる学生の学修成果修得状況をモニタすべきである。

・客観的な学修成果の修得度評価をもとにして、教育プログラムを評価し、課題を特定し、その結果をカリキュラムに反映するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム評価委員会では、カリキュラムの教育課程と学修成果のモニターを通じて、教育プログラム評価を継続的に実施している。

・医学教育に関する委員会組織の責任と役割分担については、令和５年度第８回医学科運営会議において整理・明確化された。具体的にはカリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の各委員会を、教学に関わる各委員会の体制として位置づけ教育プログラムの継続的な点検・改善に向けたPDCAサイクルの循環促進に取り組んでいる。

・令和６年度より新設されたカリキュラム開発委員会により、教育カリキュラムの開発を行っている(P)。医学科教務委員会を通じて、各診療科・講座の教員からのフィードバックを公平かつ系統的に収集している（D/C)。さらに、カリキュラム評価委員会により、実施カリキュラムの評価・教育プログラム評価を実施している（A)。

・教育プログラムを評価するためのモニタリング項目として、医師キャリアパス創造センターにより学生・教員からのフィードバック（アンケート、CC-EPOC）を収集している。また、臨床実習での形成的評価に用いられているCC-EPOCやmini-CEXなどを利用して、教育プログラムの評価を行うとともにその結果を医学部医学科FDに活用している。

・令和７年度のシラバスから各科目目標とコンピテンシー・マイルストーンを明示している。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-1　医学部医学科の教育プログラム管理（令和５年度第８回医学科運営会議資料）

・資料1-3-4　令和７年度シラバス（例：生理学）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・大学の置かれた状況、カリキュラムの問題点、学修成果修得度、社会的責任など、教育プログラム改善に資するさまざまな項目の評価法を開発し、客観的な評価結果を示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・大学の置かれた状況、カリキュラムの問題点及び社会的責任を把握し対応するため、新たに医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会に医学生や外部評価者の参加を得ることで大学の置かれた状況や社会的責任についての多面的な視点を導入した。加えて、令和６年度には、医学生のアンプロフェッショナルな行動に関する報告システムや医学生からの医療安全に関わるインシデント・レポート報告を導入し、社会的な説明責任を果たすことに取り組んだ。

・令和６年度から、医学生からのベスト指導医・診療科アンケートを導入し、多面的かつ客観的なカリキュラム改善のための情報収集と分析を行った。また、医学生のアウトカムや医行為実施経験等CC-EPOCの結果を分析した。これらの分析データは、教育プログラムと教育実践の双方の改善のために、客観的な評価結果として医学部医学科FD、医学科教務委員会等を通じて医学教育に関わる教員へフィードバックされた。また、令和７年度には、臨床実習での各診療科の実務者を構成員とした臨床実習推進会議を新設し、各科の指導医へのフィードバックも実施した。

・学修成果習得度の開発・改良を目的として、コンピテンシー及びマイストーンを含む教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（学生・教員を対象）を実施し、その結果を踏まえて、医学科教務委員会・カリキュラム開発委員会において検討を行った。

・各種アンケート（カリキュラム、臨床実習、早期介護体験実習、教員向け）の質問項目について

は、関係委員会等において、毎年度ブラッシュアップを実施している。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-3-2　学生の不適切と考えられる態度・行為に関する報告）の運用開始について
・資料7-1-2　ベスト指導医・診療科アンケート
・資料3-1-3　令和７年度第１回臨床実習推進会議資料（R7.11.25）（抜粋）
・資料7-1-3　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生）
・資料7-1-4　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員）

７．２　教員と学生からのフィードバック

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・学生からの授業評価、卒業生からの学修成果修得度の自己評価結果を、医師キャリアパス創造センターのIR機能が定期的に収集、集計、解析している。

改善のための助言

・学修成果修得度などを指標とした教育プログラムに関するフィードバックを、多くの教員から系統的に受ける仕組みを構築し、分析し、対応すべきである。
・教員と学生からのフィードバックを客観的に分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医師キャリアパス創造センターにより学生・教員からのフィードバック（アンケート、CC-EPOC）を取得している。
・令和５年度から、教員を対象とした教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査を新たに実施し、当該年度のカリキュラム評価委員会で検討している。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-3　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生）
・資料7-1-4　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・学生からの授業評価、学修成果修得度評価をもとに教育プログラム改善を行っている。

改善のための示唆

・教員と学生からのフィードバックをもとに、教育プログラム全体を俯瞰したうえで、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・医師キャリアパス創造センターにより収集されたフィードバックを利用し、カリキュラム評価委員会において教育プログラムを俯瞰的に評価し、改善の方策を検討している。さらに、カリキュラム開発委員会においてその結果を踏まえ、教育プログラムの改訂を実施している。
・令和５年度から、教員を対象とした教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、当該年度カリキュラム評価委員会で検討を行っている。
・臨床実習を終えた６年生から、優れた臨床実習指導を行った指導医・診療科に関するフィードバックを得て、各委員会において情報共有・議論を行うことで、教育プログラムの継続的な開発・改善の取り組みを行っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-3　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（医学生）
・資料7-1-4　教育プログラム・カリキュラムに関するアンケート調査（教員）
・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規

７．３　学生と卒業生の実績

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・卒業生に対して「富山大学医学部医学科コンピテンシー」修得度のアンケート調査を定期的に実施している。

改善のための助言

・学生と卒業生の実績に関する客観的な指標の解析結果をもとに、使命・学修成果、カリキュラム、資源の提供について評価し、見直しを行う体制を構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生の実績に関する客観的な指標の評価・解析のため、臨床実習における形成的評価（mini-CEXなど）、総括評価（CC-EPOCにおけるコンピテンシー・マイルストーンの関連づけ）の結果を利用している。令和６年度よりPost CC-OSCEの自大学課題の評価表にコンピテンシーを明示し、マイルストーンと関連づけることで、卒業時における学修成果の総括評価を実施している。これらの解析結果を医学部医学科FD、医学科教務委員会において共有・議論され、教育プログラムの継続的な改善に資する体制を構築している。なお、CC-EPOC解析結果（医行為や経験した症状など）は、カリキュラム評価委員会で学生も含めて検討・評価を行っている。
・卒業生の実績に関する客観的な指標の評価・解析を行うため、卒業生のアンケート調査などを利用している。解析結果については、全学FD委員会委員や医学教育学講座で確認し、検討・評価を行った。令和７年度からは、カリキュラム評価委員会において卒業時アンケートを議題として取り上げ、学生を含めた検討・評価を実施している。
・令和６年度にカリキュラム評価委員会、カリキュラム開発委員会、医学教育推進専門委員会を新設し、これらの委員会を定期的に実施している。
・富山大学独自コンピテンシーである「和漢診療学」および「富山県を含む地域医療」の総括評価についても、関係診療科（和漢診療科、総合診療科：地域医療実習、学外病院）でのCC-EPOCや内科統合卒業試験を通じて実施している。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-3-1　Post CC-OSCE評価表

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・学生の入学前における背景、成績、入試区分と、入学後の実績について、コホート研究を進めていることは評価できる。

改善のための示唆

・現在進行中のコホート研究の解析結果をもとに、カリキュラムや学生カウンセリングの改善に反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム評価委員会により、様々な情報を収集し、教育プログラムの効果の検討に取り組んでいる。
・CC-EPOCによる形成的評価とプログラム評価に取り組み、医学部医学科FDで教員への周知と実習などへの反映の重要性の周知を行った。
・CC-EPOCによる経験医行為の実績の分析結果を踏まえ、シミュレーション実習の実施などカリキュラム改善を行った。
・令和７年度からは、新たに入学試験の成績を分析対象に加え、入学時から卒業時までの成績を一元的に分析し、これにより成績不良者に対する的確なフォローアップを実施すると共に、成績下位の学生に限らず、成績に大きな変動がみられる学生についても、その要因も解析する。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-5-2　令和６年度第２回医学部医学科FD資料（R6.11.11　CC-EPOC分析データ：医行為実施経験ほか）
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規

７．４　教育の関係者の関与

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・学生を含む主要な教育に関わる構成者が、教育プログラム全体についてモニタし評価する仕組みを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生を含む構成員により組織されたカリキュラム開発委員会、カリキュラム評価委員会、医学科教務委員会の各委員会により、教育プログラム全体の把握・改善・実行が循環的に行われる体制を構築した。さらに、令和６年度より、医学教育に関わる医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教授等から構成される医学教育推進専門委員会を設置し、医学教育にかかわる構成者をより広く確保した。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-1　医学部医学科の教育プログラム管理（令和５年度第８回医学科運営会議資料）
・資料7-4-1　医学教育推進専門委員会内規

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・学生ならびに卒業生からの授業評価の結果を大学ホームページで公開している。

改善のための示唆

・学生アンケートだけではなく、教育プログラム全般に関する評価結果を広い範囲の教育の関係者に閲覧することを許可し、意見を求める仕組みを構築することが望まれる。
・患者、公共の医療の関係者などから富山大学医学部医学科のカリキュラムに関する意見聴取の機会を設けることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム評価委員会において、学生代表の意見を基に検討し、カリキュラム改善に取り組んでいる。
・令和６年度より、医学教育に関わる医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教

授等から構成され医学教育推進専門委員会を実施し、CBT、OSCEの結果やCC-EPOC、ベスト指導医・診療科に関わる情報の開示・議論することを通じて、より幅広い教育関係者に情報共有できる体制を構築した。
・カリキュラム開発委員会・カリキュラム評価委員会・医学科教務委員会委員会には医学科以外の構成員も含まれており、富山大学医学部医学科のカリキュラムに関する多様な視点からの意見聴取の機会を設けている。
・令和７年度からは、関連教育病院の病院長及び実習責任者を構成員とする「富山大学医学部医学科臨床実習運営協議会」を再開し、学外実習先からの情報収集や意見交換を行っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-4-1　令和７年度第１回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨（抜粋）（R8.2.24）
・資料7-4-1　医学教育推進専門委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規・資料1-4-2　医学科教務委員会内規

８．統轄および管理運営

８．１　統轄

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・教学に関わる各委員会の責任と役割分担を明確にし、規定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年度第８回医学科運営会議において、カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の４つの委員会が、教学に関わる各委員会の体制として整理され、各委員会の責任と役割分担が明確化された。（令和６年４月１日より施行）
　カリキュラム開発委員会：教育プログラムを開発する。
　医学科教務委員会：カリキュラム全般を実行する。教育プログラムの運営にリーダーシップを有する。
　カリキュラム評価委員会：カリキュラムの評価を行う。
　医学教育推進専門委員会：CBT/OSCEを実施する。

・各委員会においてPDCAサイクルによる教育プログラムの改善の取り組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-1　医学部医学科の教育プログラム管理（令和５年度第８回医学科運営会議資料）

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点

・決定事項のうち、学内外への公表が必要と考えられるものについては、大学ホームページを介して 適切に公表されている。

改善のための示唆

・教学に関わる各委員会に主な教育の関係者ならびにその他の教育の関係者の意見を反映させる

ことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会について、医学生、医学科以外の教員が参加しており、以前より多面的な教育課題の検討が可能となっている。例えば、カリキュラム評価委員会では、医学生に加えて教育学部の教授などのその他の教育の関係者からの意見を聴取している。

・令和６年度より新設された医学教育推進専門委員会は、医学部医学科の助教・講師・准教授全員と、附属病院の准教授から構成され、教授から構成される医学科運営会議とあわせて、文字通り教育に関わる全ての教員が教学の実施に関与できる仕組みを構築している。

・今後は、薬学・看護学などの教員等からの意見集約などについても検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料8-1-1　カリキュラム評価委員会委員名簿
・資料7-4-1　医学教育推進専門委員会内規

８．２　教学における執行部（Ver2.33：教学のリーダーシップ）

基本的水準　部分的適合

特色ある点

・なし

改善のための助言

・教育プログラムを運営する教学のリーダーシップの責務を明確にし、規定に定めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学長は学長選考・監察会議、医学部長は医学部長選考規則および学長が任免権を有すること、医学科教務委員会は医学科運営会議、その他カリキュラム関係会議は医学科教務委員会により評価を行う体制が構築されている。学長・学部長・委員会の長など、教学のリーダーシップの責務については、富山大学では次のように規定されている。学長については、「富山大学役員規則」、「富山大学学長選考規則」および「富山大学学長の解任手続に関する規則」で示されている。また、医学部長の責務と選考は、「富山大学学部長選考規則」、「富山大学医学部長候補者推薦細則」で示されている。医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会のリーダーシップ評価は、各委員会の内規により責務等が示されている。

・令和５年第８回医学科運営会議において、従来、医学科教務委員会とカリキュラム委員会が教学を担っていたものを、教育プログラムの開発を行う「カリキュラム開発委員会」、教育プログラムの実行を行う「医学科教務委員会」（カリキュラム全般の実施）、「医学教育推進専門委員会」（CBT/OSCEの実施）、さらにカリキュラムの評価を行う「カリキュラム評価委員会」（カリキュラム委員会より名称変更）からなる４つの委員会による体制を構築することが承認された。これによって、医学科教務委員会が教育プログラムの運営において、リーダーシップを担うことが明確化された。なお、本体制は令和６年４月１日より施行された。４つの委員会により教学に関する検討を継続する。

改善状況を示す根拠資料

・資料8-2-1　富山大学役員規則
・資料8-2-2　富山大学学長選考規則

・資料8-2-3　富山大学学長の解任手続に関する規則
・資料8-2-4　富山大学学部長選考規則
・資料8-2-5　富山大学医学部長候補者推薦細則
・資料7-1-1　医学部医学科の教育プログラム管理（令和５年度第８回医学科運営会議資料）
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規

質的向上のための水準　部分的適合

特色ある点
・なし

改善のための示唆
・医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」に則した教学のリーダーシップ評価を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画
・学長・学部長・委員会の長などの教学のリーダーシップ評価について、富山大学の学長については、「富山大学役員規則」、「富山大学学長選考規則」および「富山大学学長の解任手続に関する規則」により責務・選考手順が示され、学長選考監察会議により評価される。また、医学部長は、「富山大学学部長選考規則」、「富山大学医学部長候補者推薦細則」により責務・選考手順が示され、医学部長選考規則および学長が任免権を有し、学長による評価を受ける。
・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・カリキュラム開発委員会のリーダーシップ評価は、各委員会の内規により責務等が示されており、医学科教務委員会は年度ごとに医学科運営会議により、その他カリキュラム関係委員会は医学科教務委員会により評価される。
・各委員会の委員選出にあたっては、基礎医学系・臨床医学系からバランス良く人選する方針としており、加えて各委員会には医学教育の専門教員（医学教育学講座）も委員として選出されている。
・医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」に則した教学のリーダーシップ評価について、医学部長・医学科長・教務委員長や各委員会の委員選出に際しては、医学部の使命と「富山大学医学部医学科コンピテンシー」の達成を目的として継続的に検討している。

改善状況を示す根拠資料
・資料8-2-6　富山大学学長選考・監察会議規則
・資料8-2-1　富山大学役員規則
・資料8-2-2　富山大学学長選考規則
・資料8-2-3　富山大学学長の解任手続に関する規則
・資料8-2-4　富山大学学部長選考規則
・資料8-2-5　富山大学医学部長候補者推薦細則
・資料1-4-2　医学科教務委員会内規
・資料1-4-3　医学科カリキュラム評価委員会内規
・資料1-2-1　医学科カリキュラム開発委員会内規
・資料8-2-7　各委員会委員名簿

８．３　教育予算と資源配分

基本的水準　適合

特色ある点
・カリキュラム実施に必要な教育関係予算を配分するために「部局長リーダーシップ経費」が措置

されている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・社会の健康上のニーズにより、組織再編による講座やセンターの新設、寄附講座の開設を推進している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・該当なし

８．４　事務と運営

基本的水準　適合

特色ある点

・医薬系事務部と病院事務部が協働で、医療系教育の運営と資源配分を行っている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和５年４月に医薬系事務部と病院事務部の２つの部を杉谷地区事務部に統合し、医学部・病院の事務・運営における連携強化、さらには医療系教育の運営体制の改善を図っている。

改善状況を示す根拠資料

・資料8-4-1　富山大学事務組織規則

質的向上のための水準　適合

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・事務職員のStaff Development(SD)を充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・カリキュラム評価委員会における学生からの事務職員に対する要望は、学務課職員が出席しているために容易に周知される仕組みになっている。

・事務職員のSDについては、定期的に実施されている。

改善状況を示す根拠資料

・資料8-4-2　SDに関する資料

８．５　保健医療部門との交流

基本的水準　適合
特色ある点 ・地域社会や行政の保健医療部門と積極的に交流を行っている
改善のための助言 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし
質的向上のための水準　適合
特色ある点 ・なし
改善のための示唆 ・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・特記事項なし
改善状況を示す根拠資料 ・該当なし

９．継続的改良

基本的水準　部分的適合
特色ある点 ・なし
改善のための助言 ・教学に関わる各委員会の責任と役割分担を明確にし、教育プログラム評価を適切に行う仕組みを構築し、継続的な改良を行うべきである。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画 ・令和５年度第８回医学科運営会議においてカリキュラム開発委員会・医学科教務委員会・カリキュラム評価委員会・医学教育推進専門委員会の４つの委員会が、教学に関わる体制として整理され、令和６年４月１日から施行された。 ・医学科運営会議において、以下の体制を構築することが承認され、医学教育におけるPDCAサイクルを適切に機能させる体制を整備した。 カリキュラム開発委員会：教育プログラムの開発を担う。 医学科教務委員会：カリキュラム全般を担い、教育プログラムの運営においてリーダーシップを有する。 カリキュラム評価委員会：カリキュラムの評価を担う。 医学教育推進専門委員会：CBT/OSCEの実施を担う。 上記の４つの委員会により、教育プログラム評価の適切な実施のために、PDCAサイクルに基づ

く教学の継続的な改善に取り組んでいる。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-1-1　医学部医学科の教育プログラム管理（令和５年度第８回医学科運営会議資料）